

「スタンバイ」にした人工呼吸器の開始忘れて、換気されなかった事例

<事例 1> 看護師Aは、人工呼吸器 (Servo i) を装着していた患者の体位を変えるため、人工呼吸器のモードを「オン」から「スタンバイ」に切り替え、看護師Bと共に患者の体位を変えた。その後、看護師Aは、人工呼吸器のモードを「スタンバイ」から「オン」に切り替えるのを忘れた。

<事例 2> 人工呼吸器 (Servo i) を装着していた患者がトイレに行くために、看護師Cは、人工呼吸器のモードを「スタンバイ」にした。患者がトイレから戻り、看護師Dが、患者の痰の吸引を行い、人工呼吸器を装着した。この時、看護師Dは、人工呼吸器のモードを「スタンバイ」から「オン」に切り替えるのを忘れた。

人工呼吸器によって、「スタンバイ」、「スタンバイモード」、「スタンバイ機能」など、いくつかの名称で搭載されています。「スタンバイ」は、患者に呼吸回路を装着し換気動作を開始する前に、適切な換気条件の設定やアラーム機能の確認などを行う目的で搭載されているものです。

「スタンバイ」の状態では、換気は行われていません。

「スタンバイ」などの機能を使用した後に人工呼吸器を患者に装着する際は、必ず、開始ボタンを押して換気が行われていることを、胸郭の動きに基づいて確認しましょう！



※ 詳しくは、財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

<http://www.jcqh.or.jp/html/index.htm> を参照して下さい。